

## 岡山県自然保護センター総合学習プログラム実践記録

行事名 <b>炭焼き①「ノコを使う」</b>	担当者 脇本 浩
ボランティア(依頼)：高野佳郎さん、山柘杉二郎さん (自主)：－	
現地指導員：佐伯町シルバー人材センターより中家堅さんほか6名	
日時・天候：平成14年11月6日(水)、9：15～11：20、晴れ	
場 所：自然保護センター内のたんぼ奥 コナラ林	
参加人数：佐伯小学校6年生24名、引率教諭2名	
スペシャルメモ(行事の内容を一言で)、目標など ノコの使い方の基本を学ぶ。	

 準備物

刃渡り24cmの生木用ノコ10丁

 聞き取り内容(簡条書きで)

中家先生のお話

一けがをせず、能率よくノコを使うために－

- 木をしっかり固定する。
- 幹や枝にノコを直角に当てる。
- 切り始めはノコの手元を使う。ノコの通り道が決まったら全体を大きく使う。
- 真っすぐに引く。引っ張るときに力を入れる。
- 体の正面で使うように足元を決める。
- 最後の一引きは慎重に、軽く引く。

 観察した生きもの

- 晩秋のたんぼのほとりに咲いていた花を観察した。特に、リンドウやセンブリの花が美しかった。センブリの葉をかんでその強烈な苦さを味わった。
- セイタカアワダチソウの花で蜜を吸っているアサギマダラを観察した。
- コナラのドングリを拾った。

 備考欄(注意書き：簡条書きで)

- ノコの正しい使い方について徹底させるようにする。
- ヘルメットを被るように指導する。
- 軍手を着用するよう指導する。
- 服装については学校に任せる。

プログラム進行			
時間	プログラムの流れ	進め方・留意点など	準備物など
9:15	センター到着 あいさつ	ボランティア紹介 今日の進行について説明する。	ノコ10丁
9:30	現場到着  10班に分かれる。  幹から枝を切り離す。	シルバー紹介  中冢先生がノコの使い方や協力の大切さについての説明をする。  各班に指導者がつき、細かく指導する。	
11:00	片付け 自然観察	森の中やたんぼの周辺を散策しながら、晩秋の自然を味わう。	
11:20	あいさつ、終了		

#### 参加者の反応

晴天にも恵まれて、子どもたちは実にいきいきと楽しそうに活動していた。女子は敬遠して消極的になるかと心配したが、男子以上に積極的であった。

#### 実施者の総括

24名の子どもを10班に分け、ノコ1丁を配布した。それぞれの班に指導者1名がつくことにした。作業をしながらノコの使い方を指導した。はじめは、どこを切ったらよいかわからなかったり、木に対して直角に当てられなかったり、まっすぐに引けなかったりして、なかなかはかどらなかったが、30分もするとどの子どももスムーズに切れるようになった。基本をしっかり教えること、そして、慣れることの大切さを強く感じた。

## 岡山県自然保護センター総合学習プログラム実践記録

行事名 <b>炭焼き②「たきものづくり」</b>	担当者 脇本 浩
ボランティア(依頼)：高野佳郎さん、山柁杉二郎さん (自主)：—	
現地指導員：佐伯町シルバー人材センターより中家堅さんほか4名	
日時・天候：平成14年11月13日(水)、9：15～11：20、晴れ 場 所：自然保護センター内のたんぼ奥 コナラ林 参加人数：佐伯小学校6年生23名、引率教諭2名	
スペシャルメモ (行事の内容を一言で)、目標など たきものがつくれるようになる。	

 準備物

刃渡り24cmの生木用ノコ10丁、荒縄長さ約1mを50本

 聞き取り内容 (箇条書きで)

中家先生のお話

- たきものの使いみちについて。
- 太さ(最大子どもの手首大まで)、長さ(最長で約1m)をそろえるために切り落とした枝の全体をよく見て、切る位置や順番を決める。
- 細い枝はノコで傷をつけ手で折る。
- 長さをそろえて切った枝を元をそろえて集め、荒縄でくくる。一人では無理なので二人で協力することが大事。

 観察した生きもの

今回は観察時間が取れなかった。

 備考欄 (注意書き：箇条書きで)

- ノコの使い方については、前回と同じような点について繰り返し指導する。だいぶノコの使い方も慣れてきたので、油断しないように集中して作業するように注意をうながす。
- たきものの材料がそろった時点で、荒縄でくくる。くくる作業は難しいので多くの指導が必要であるが、ここでも、一人が押さえる、一人がくくる、と言うふうに、互いの協力をうながす。

プログラム進行			
時間	プログラムの流れ	進め方・留意点など	準備物など
9:15	センター到着 あいさつ	ボランティア紹介 今日の進行について説明する。	ノコ10丁 荒縄長さ約1mを 50本
9:30	現場到着  10班に分かれる。  たきものづくりを始める。	シルバー紹介  中家先生がたきものづくりについて説明をする。  前回に切り落とした枝を長さをそろえて切る。ある程度集まったら、しっかりとくくる。できた束は決まった場所に置く。  指導者が少ないので各班を巡回して、けがや事故のないよう留意する。	
11:00	片付け		
11:20	あいさつ、終了	周辺を自由に散策した。	

#### □ 参加者の反応

ノコの使い方にもだいぶ慣れて、作業がスムーズに進んだ。子どもも自信がついてきたようだ。一人2束の目標に向かって意欲的に取り組み、どの組も目標を達成することができた。中には目標以上に頑張った班もあった。

#### □ 実施者の総括

前回と同じ、ノコを使う作業ではあるが、幹から枝を切り落とすことよりも違った難しさがある。束ねることを前提に切るなので、どの枝をどこで切るかが大事になる。慣れてくると分かることだが、今日の作業である程度子どもにも分かったと思う。細い枝を切ることが多いので、通常は鎌を使うのであるが、今回は安全第一を考え、ノコを使うことにした。

## 岡山県自然保護センター総合学習プログラム実践記録

<b>行事名</b> <b>炭焼き③「玉切り」</b>	<b>担当者</b> 脇本 浩
<b>ボランティア(依頼)</b> ：高野佳郎さん <b>(自主)</b> ：－ <b>現地指導員</b> ：佐伯町シルバー人材センターより中家堅さんほか4名	
<b>日時・天候</b> ：平成14年11月22日(金)，9：15～11：20，晴れ <b>場 所</b> ：自然保護センター内のたんぼ奥 コナラ林 <b>参加人数</b> ：佐伯小学校6年生23名，引率教諭2名	
<b>スペシャルメモ (行事の内容を一言で)，目標など</b> 長さをそろえて切る。	

 準備物

刃渡り24cmの生木用ノコ10丁，約1mの寸木10本，玉切り台10箇所

 聞き取り内容 (箇条書きで)

中家先生のお話

- 玉切り台 (木をのせる台で，やや細目の木を2本X字状に結び，地上に固定したもの) に切る木をのせ，切る位置に印をつける。
- 木が動かないように協力しあう。
- 元から順に切る。
- 体の正面で切るように体の位置を決め，ノコの歯全体を使って両手で力強く引く。

 観察した生きもの

今回は観察する時間が取れなかった。

 備考欄 (注意書き：箇条書きで)

- 切った木をその場に置いておくと邪魔になるのとけがの原因にもなるので決められた場所に置くようにする。大きな丸太を動かすときには，指を挟まれないように気をつける。
- 今までにないような太い木を切るので，ゆっくりしたペースで引くようにする。
- 直角にノコを当てて引くようにする。

プログラム進行			
時間	プログラムの流れ	進め方・留意点など	準備物など
9:15	センター到着 あいさつ	ボランティア紹介 今日の進行について説明する。	
9:30	現場到着	シルバー紹介 中家先生が玉切りの方法や留意点について説明する。	ノコ10丁 約1mの寸木10本
	10班に分かれ、作業を始める。	2班に1人の割りで指導者がつく。 一窯分大小200本の原木を準備する。	玉切り台10箇所
	原木の運搬	作業現場から炭窯まで運ぶ。	
11:15	片付け		
11:20	あいさつ、終了		

#### □ 参加者の反応

ノコの使い方や力の差が作業能率に現れてきたが、途中で放棄する子どもは見られなかった。皆最後まで頑張った。

#### □ 実施者の総括

原木を一窯分（約200本）そろえることが本日の作業であった。200本の内訳は直径10cm～20cmが約100本、直径5cmから10cmまでの太さのが約100本であった。予定より早く終了したので、原木を炭窯まで運ぶことにした。肩にかついで運ぶ経験はほとんど無かったので、重心の取り方が難しかったようだが、慣れるにしたがって上手になった。原木の種類であるが、今回はソヨゴ、ヒサカキがほとんどで、コナラが多少交じる程度であった。3回目ともなると、ボランティアやシルバーの方たちとも親しくなり、楽しい会話もできるようになった。地元の方との交流もこの学習の目的の一つなので、この面でも成果が上がりつつあると感じた。

## 岡山県自然保護センター総合学習プログラム実践記録

行事名 <b>炭焼き④「詰め込み・火入れ」</b>	担当者 脇本 浩
ボランティア(依頼)：長尾弘子さん，山柘杉二郎さん (自主)：－ 現地指導員：佐伯町シルバー人材センターより中家堅さんほか2名	
日時・天候：平成14年12月6日(金)，9：15～11：20，晴れ 場 所：自然保護センター内の炭窯付近 参加人数：佐伯小学校6年生23名，引率教諭2名	
スペシャルメモ (行事の内容を一言で)，目標など 原木を窯に詰め込む方法を知る。	

 準備物

特別な物は無い。

 聞き取り内容 (箇条書きで)

中家先生のお話

## ◎詰め込み

- 原木を窯に詰め込むときには，隙間をつくらないようにする。
- そのためには，原木の元を上，先を下にして置く。
- 太い木の間に細い木を入れて，隙間をつくらないようにする。

## ◎火入れ

- 火を絶やさないように気をつけながら，窯口で丸2日間たく。
- 炭になっているかどうかは煙りの色で判断する。そのタイミングが難しい。
- 煙の色が青から透明になったら焚くのをやめて，窯口を粘土で密閉する。

 観察した生きもの

作業を終えて10分間ほど辺りを散策しながら自然観察を行なった。虫コブに興味をもつ子どもがいろいろと質問を受けた。

 備考欄 (注意書き：箇条書きで)

- 詰め込み作業はかなり難しいので，体験程度にして大部分はシルバーの方にお任せする。できるだけ大勢の子どもに体験できるように配慮する。
- 火入れとその後の焼きあがるまでの世話についてもシルバーさんをお願いする。火入れの見学などが限度。
- 原木を積んでいるところから窯口までは手渡しで運ぶが，うっかりして落とすと足に当たり，けがのもとになるので十分注意する。

プログラム進行			
時間	プログラムの流れ	進め方・留意点など	準備物など
9:15	センター到着 あいさつ	ボランティア紹介 今日の進行について説明する。	
9:30	現場到着 作業内容について話を聞く。  手渡しで原木を運ぶ。  詰め込みの体験をする。  火入れの様子を見学。  焼きあがるまでの経過について聞く。  自然観察	シルバー紹介 中家先生が詰め込み作業や注意点について説明する。 落とさないように気をつける。  全員が体験できるように配慮する。  2日間絶やさずに燃やし続ける。 煙の色で火を止めるタイミングをはかる。  自由に散策。虫コブを発見。	
11:20	あいさつ、終了	次回に準備する物について。 炭を入れる袋。焼き芋用の芋。	

#### □ 参加者の反応

原木を窯に詰める作業を通して、いよいよ炭ができるという実感がわいてきたようだ。大きな生の木がどうやって炭になるのか、興味津々な様子であった。

#### □ 実施者の総括

いよいよ炭焼きも終盤に近づいた。今日を中心になる作業は原木を窯口まで運ぶことだった。単純な作業だけに気の緩むところだ。しかし、皆げがもなく終わることができてよかった。見学が多かったが見ることも大事である。



## 岡山県自然保護センター総合学習プログラム実践記録

行事名 <b>炭焼き⑤「窯だし」</b>	担当者 脇本 浩
ボランティア(依頼)：高野佳郎さん，山柘杉二郎さん (自主)：長尾弘子さん 現地指導員：佐伯町シルバー人材センターより中家堅さんほか5名	
日時・天候：平成14年12月19日(休)，9：15～11：20，雨 場 所：自然保護センター内の炭窯付近 参加人数：佐伯小学校6年生24名，引率教諭2名	
スペシャルメモ（行事の内容を一言で），目標など 窯だしの体験と方法を知る。	

 準備物

子ども：炭入れ用の袋，焼き芋用の芋  
センター：焼き芋用のアルミホイル4巻，古新聞5日分，バケツ1個

 聞き取り内容（箇条書きで）

中家先生のお話

- 炭を大事に扱い，折れないように気をつける。
- 口から順にひとまず全部出す。それから炭になっていないものを除くようにする。
- 今回は窯をふさいでから10日かけているので十分窯の温度が下がっている。窯の温度が十分下がってから口を開けないと，再び火がつくことがあり危険である。また，火がつかなくても，熱くて作業ができないことがある。
- 火を止めるタイミングがずれると，生焼けが多かったり，灰になったりするので，いつ止めるかは非常に大事なことである。

 観察した生きもの

今回は雨のために自然観察はできなかった。

 備考欄（注意書き：箇条書きで）

- 炭になるといかに軽くなるかを実感させる。
- 炭を大事に扱う。
- 雨で足元が悪いので転ばぬように気をつける。
- 自分たちで焼いた炭を用いて焼き芋をする。

プログラム進行			
時間	プログラムの流れ	進め方・留意点など	準備物など
9:15	センター到着 あいさつ	ボランティア紹介 今日の進行について説明する。	
9:30	現場到着 焼き芋の準備をする。  窯だしをする。  炭を袋に入れる。  炭の一部をたき火に入れる。  焼き芋を賞味する	シルバー紹介 焼き芋ができるまでに30分ぐらいかかるので、窯だしの前に準備する。  中家先生が窯だし作業についての説明をする。  大勢が体験できるように配慮する。  自分たちで焼いた炭で焼き芋をつくった、という意識を持たせるために。	さつまいも 1個 (子ども) アルミホイル 4巻    袋 (子ども)
11:20	あいさつ、終了		

#### □ 参加者の反応

朝から雨天であったが、窯だしの日とあって子どもたちはころなしかうきうきしていた。袋が破れるほど炭を詰め込む子どももいた。小雨が降りしきる中、焼き芋を賞味する子どもの顔には満足感が感じられた。後日いただいた感想文に炭焼き体験をしてよかったこと、焼き芋がおいしかったこと、そして、世話になった方への感謝の気持ちが綴られていた。

#### □ 実施者の総括

傘をさしての実施となったが、さいわい、大雨にはならずなんとか終わることができた。子どもたちは、はじめ楽しさと不安とが入り交じっていたようだが、回を重ねるごとに物にも人にも慣れてきて楽しそうにやれたと思う。炭焼き自体も貴重な体験ではあるが、特に地元の方々とのきめ細かい交流ができたことにもこの総合学習のよさがあったと思う。

## 子どもの感想〈炭焼きコース〉—佐伯町立佐伯小学校6年生—

### 炭焼き体験をして

岡田 暁

ずっと前からやっていた炭焼き体験。最初の頃を振り返ってみると、木をのこぎりで切って同じ長さにして、かまへ木を運んだり……。いろいろなことがありました。中でも一番大変だった事は木をのこぎりで切る作業です。太い木を二人で一生涯懸命切った事は、とっても心に残っています。そして、一番嬉しかったのは、炭が出来上がった時です。「がんばったかいがあったなあ。」と思いました。炭焼き体験が出来て本当に良かったです。

持って帰った炭はバーベキューや日常生活などで使おうと思います。炭がうまく出来てとってもよかったです。

自然保護センター、シルバーセンター、ボランティアの皆さん、ありがとうございました。

### 「炭焼き体験の学習をして」

畠 希

炭焼きを実際に体験して、むずかしかったことや楽しかったことがいっぱいありました。のこぎりで木を切る時、とてもむずかしかったです。むずかしかったけどシルバーセンターやボランティアの方が切り方を教えてくださいました。

かまづめは、かまの中に入れてつめました。かまの中はとてもせまくてきゅうくつでした。かまの口のところにれんがが積んでありました。スムーズにできていてすごいと思いました。

楽しかったことは、最後にみんなで作った炭で焼きいもをしたことです。みんなで作った炭で焼きいもをしたらとてもおいしかったです。

総合で炭の勉強をして炭のことがいっぱいわかりました。持って帰った炭は、家でバーベキューや焼きいもをしたいと思います。

### 炭焼き体験の感想

野山佳那美

炭焼きの体験をしての私の感想は、とても楽しくできたことと、協力してできたことです。私は炭焼きの体験をしたことがなくて、とても楽しみでした。でも、思っていたよりもたいへんだったし、「昔の人はこんなことを、毎日していたのかなあ。」と強く実感しました。

木を切ったり、木を運んだり、かまの中に木を入れたり、つかれたけれど最後に炭ができて、とてもうれしかったです。最後まで一生懸命6年生のみんなで作った炭は、お店で売ってあるのちがうから、大切に使いたいと思います。それに、最後に食べた焼きいももとてもおいしかったです。

最後まで手伝ってくださったシルバーセンターの方やボランティアで来てくださった方、自然保護センターの方に、もう一度おれいを言いたいです。



佐伯小6年 炭焼き「玉切り」(2002.11.22)



佐伯小6年 炭焼き「原木の運搬」(2002.11.22)

## 担任の先生の感想〈炭焼きコース〉

### 単元（炭名人になろう）を終えて

佐伯町立佐伯小学校 6年担任 吉久 正見

単元全体の活動を終えて、成果と課題を列挙します。

#### 【成果】

- 炭に対しての児童の興味や関心を高め、継続した活動が展開できるかどうか当初は不安であったが、児童は、思った以上に最後まで進んで活動に取り組むことができた。題材の炭の持つ奥深さが指導者にも実感できました。
- 教室での学習だけでなく、地域の人々との交流や具体的な活動を通して、炭の良さやそれを作ってきた人々の苦労や工夫について学ぶことができ、地域の良さを再認識するきっかけとなりました。
- グループや班での活動を通じて、協力の大切さを学ぶことができました。
- 課題設定、探求、体験、整理の一連の活動を通して、問題解決的な学習の仕方を少しずつではありますが身につけることができました。

#### 【課題】

- 目指す児童像をより具体的に設定し、評価の観点や評価方法とのつき合わせをしながら、単元全体を改善していく必要があります。
- 体験活動では、自然保護センターの方々に多大の支援をいただき、スムーズな活動ができましたが、次回に取り組む時には、事前にドラム缶窯などで自分たちなりの成功や失敗の体験をした上で、センターでの活動に臨むなどの工夫をしてみたいと思います。
- 単元のまとめのしかたが、今回は炭の完成で終了してしまいました。できた炭の活用などを取り入れて、もう少し別の展開も考えてみたいと思います。

#### 【付記】

本実践を進めるにあたり、次の方々には多大のご協力・ご支援をいただきました。体験学習でお世話をいただいた自然保護センターの脇本様はじめ町内の佐伯町シルバー人材センターの方々やボランティアの皆様方、ゲストティーチャーとしてご協力いただいた久永幹雄様、炭焼きの取材に応じて下さった土屋 薫様、いろいろな情報を提供して下さった浦上良隆様。最後になりましたが、厚くお礼申し上げます。



佐伯小6年 炭焼き「詰め込み」(2002.12.6)



佐伯小6年 炭焼き「窯出し」(2002.12.19)

## 子どもの感想〈炭焼きコース〉—佐伯町立山田小学校4年生—

山田小学校4年生の「炭焼きコース」は実践プログラムは省略し、子どもの感想文、担任の先生の感想文、写真をのせました。

### 楽しかった炭焼き体験

長田 成美

わたしは、木を切る時、「こんなにも切れるかな?」と、思いました。でもシルバーのみなさんが教えてくれたので、とっとうまく切れました。シルバーのみなさんは、とっともやさしかったです。ボランティアの方もとっともやさしくしてくださったのでうれしかったです。

自然の中で、ドングリをひろったり、薬草を食べたりしました。にがかったです。リースもうまく作れました。グミもおいしかったです。また食べたいなー。めずらしいチョウもいました。きれいだなーと思いました。自然はきれいだなーと思いました。

第1回目の炭焼き体験では、10月30日に「枝うち」をしました。こんなにも枝が切れるかなーと思いました。でもみんな一生けん命がんばったのでたくさん切れました。

11月8日は「東ねる」さぎょうをしました。15束ぐらいできました。東ねるのはたいへんでした。

11月11日の第3回目は「玉切り」をしました。ふとい木を切るのは、たいへんでした。でも力いっぱいがんばったのでいっぱいできました。

11月15日、4回目は「かま入れ」をしました。でも、わたしは、体長が悪くて、できませんでした。自然保護センターのみなさんもやさしくしてくださったので、うれしかったです。でも、5回目は、力いっぱいがんばりたいと思いました。

11月25日、5回目は「かま出し」をしました。れんがをこわして炭をスコップで出しました。きれいに炭ができていました。みんな一生けん命がんばったのでいい炭ができたんだなーと思いました。

わたしは、炭をいっぱい持って帰りました。わたしの家では、部屋とかトイレにおいています。

炭焼き体験は、楽しかったです。

### 炭焼きの思いで

森本 敦士

ボランティアの人に「枝うち」をやさしく教えてもらいました。それから、薬草の名前や話をしてくれました。

森でみつけたドングリを学校に持って帰ってドングリクッキーにしました。

チェーンソーできりたおした木をみんなで力を合わせて、長さをそろえて切りました。それを暗いかまの中に立てかけました。

そして、かまの中から炭を出す時にはほくやみんなもわくわくしました。炭が完成した時、みんな炭にとびつくように炭をふくろに入れました。

炭焼きの最後の日、おいもを焼いて食べました。木の名前クイズでぜんぶ正解して賞の竹とんぼをもらいました。

枝を切る時、やさしく教えてもらったことが心にのこりました。うれしかったです。

### 炭焼き体験は楽しかった

長尾 一弘

ほくは、炭焼き体験の3日目の「丸た切り」をゆうじ君といっしょにしました。

最初にゆうじ君が木を持ってほくが切りました。最初はノコギリがうまく使えなくてシルバーさんにたすけてもらうばかりでした。なんどもなんどもしていたら、いつのまにかできるようになって、シルバーさんから「じょうずになったなー」といわれました。うれしかったです。そして、シルバーさんが「ノコギリをもうちょっと手前に引いたら早く切れるよ」といわれて、やってみると、本当にきれいに早く切れるようになりました。ほくは、「さすがシルバーさんだなー」と思いました。それから、切った丸たをかさねておわりました。

そして、うれしいことを聞いてびっくりしました。みんなで力を合わせてやったので、時間がいい

っぱいあまり、山でドングリをひろって帰りました。もう一つ思いでにのこっていることは、ドングリクッキーのことです。山でひろったドングリでクッキーを作りました。ドングリクッキーのはじまりは、丸本彩文さんでした。そして、ドングリクッキーができて、食べてみると、とてもおいしかったので、シルバーさんにあげました。すると、とてもうれしそうなかおをしていました。ほくは、シルバーさんがうれしそうなかおをしていたので、うれしかったです。また山でひろったドングリでクッキーを作ってみたいです。そして、シルバーさんにあじのかんそうを聞きたいです。

こんどは、竹炭が作りたいです。そして、まだまだ炭について調べたいです。本当にありがとうございました。

## 炭焼き体験

富田 翔子

私は、炭を自分で「かま」に入れて作ったことがなかった。だから、この体験を通して「炭のことをたくさん知りたいなあ。」と思っていた。

心に一番のこっていることは、「玉切り」だ。私は、ノコギリを使って、木を切ったことがほとんどなかったから、



これから始まる「炭焼き」の説明を聞く。  
(2002.10.30)

「上手にできるかな？」

と思っていた。やってみると、手がいたくてとちゅうでやめたくなったけど、最後にはとっても気持ちよかった。その時は、とってもできあがりを楽しみだった。

私にとって、すべてが初めてだった「炭焼き体験」は、とってもいい経験だった。

できあがった炭は、学習発表会で一つの家へ一袋ずつ配った。

「みんな使ってくれているかなあ？」

と今は思う。私の家では、バーベキューや消臭などに使っている。

お世話になったシルバーの方やボランティアの方や脇本さんたちは、私たちにとてもやさしく、くわしく教えて下さった。脇本さんは私たちに自然のこともたくさん教えて下さり、私は、木や花などの名前がとてもよくわかった。自然の中で拾ったドングリでクッキーを作った。食べてみると、

「やっぱり自然の中で拾ったドングリだなあ。」  
と思った。とてもおいしかった。

炭焼き体験でたくさんお世話になった方に、心から今お礼を言いたいと思う。

「ありがとうございました。」



炭焼きの最後の日、おいもを焼いて食べました。  
(2002.11.25)

## 担任の先生の感想〈炭焼きコース〉

### 炭焼き体験を終えて

佐伯町立山田小学校 4年担任 玉谷 一生

#### ① 10/30 ノコを使う（枝打ち）

〈参加児童数 14人〉

- チェーンソーで木を倒す様子を見ることができて、うれしかった。
- コナラの森へ行く途中で、珍しいチョウに出会うことができた。脇本さんのお話で大変珍しく、全国の調査の対象になると聞き驚いていた。
- 枝打ち作業は、初めてだった（板材は授業で切った経験はあった）ので、初めは上手にできなかったけど、だんだんと教えて頂きながら上手にできるようになった。
- どの日も、終わりに自由な時間や薬草などの珍しい植物や秋グミを食べさせて頂くなど、たくさんの「秋の自然」に触れることができ、大変よい経験ができた。

#### ② 11/8 たきもの作り

〈参加児童数 14人〉

- 大きな枝を大体同じ大きさに切っていくという作業で、多くの子どもたちにとって「だいたい同じ大きさに揃えていく。」というのが感覚として捕らえにくく作業が進まない児童が多かった。しかし、お手本を見せて頂いたり、アドバイスを頂いているうちに、だんだんとできるようになっていった。実体験の大切さと子どもたちの吸収力のよさを感じた一日でした。

#### ③ 11/11 玉切り

〈参加児童数 13人〉

- のこで木を切るのが2回目ということもあり、また、長ささえ合わせられればできる作業だったので、枝打ちよりもスムーズに行うことができた。
- たくさんの指導者の方々が、しっかりとほめながら教えてくださったので、ますます子どもたちも意欲的で、最後にはかなり太い木にも挑戦させてくださったので子どもたちの印象にとて

も残っている作業の一つです。

#### ④ 11/15 詰め込み、火入れ

〈参加児童数 12人〉

- 実際に初めて炭を作るかまを見て、またその仕組みを知って驚いていた。
- かまの中へぎっしりと詰めていく作業を自分たちでもやることができてよかった。
- かまの中は、暗くて、温かかったのがとても印象に残っていた。
- レンガで入り口をほとんどふさいでしまうこと、火の温度で炭になるかどうかというお話を聞いて驚いていた。詳しい仕組みについては、学校でも触れてみたが4年生の児童には少し難しいようだった。
- この日は、いつもより早く終わったので、もう少しボランティアの方々のお話を聞いたり、触れ合う時間に当ててもよかったと思った。子どもたちは、自然の中で走り回って楽しかったようだが……。

#### ⑤ 11/25 窯だし

〈参加児童数 12人〉

- 自分たちが切った木が、実際に炭になってできていると思うと、何日も前からワクワクした気持ちで、楽しみにしていた。
- 当日は、木よりはとて小さくなっていたことにも驚いていたが、立派な炭をたくさん持って帰ることができ大変喜んでいました。
- 窯出しをしている間に、準備しておいたサツマイモがおいしく焼けていて、これもまた感激であった。深まった秋の里山の中で、おいしい焼きいもを頂きながら、とても気持ちよかった。子どもたちから思わず、「もう、里山に住みたい〜。」という声も聞こえた。
- この日が最後になるので、毎日通っていた道の木々を脇本さんにクイズしていただき、とても

よい勉強になった。名前を覚えるという知的な喜びとクイズで楽しくできる喜びと植物や昆虫に詳しい脇本さんと触れ合いながら勉強できることが何よりもうれしかったと思う。

- 高野さんから「子どもと約束したから」とクルミを頂いたのが大変うれしかった。クルミを頂けたこと自体と高野さんが覚えていてくださったことがうれしかったと思う。

全体を通して、だんだんと深まりゆく自然の中で、力いっぱいの活動ができ大変すばらしい体験となった。たくさんの方々にお世話になり、大変感謝している。里山のすばらしさ、自然の美しさ

を体感し、自分たちの「吉井川の学習」「ごみの学習」とを合わせて、ますます自然を大切にしなければならない気持ちを強めている。強いて言えば、もう少しお世話になった方々と深く関わりたいかと思う。「昔の里山の話（普段どういうふうに入っていたか、など）」や「炭をどういうふうに使っていたか。」、子どもたちからも、「あの方々は普段何をされているのか。」などの声も聞かれたので、もう少しゆっくりお話を聞く機会があればよかったと思う。

脇本先生、ボランティアの方々、シルバーの皆さん、本当にお世話になりました。



炭を焼いている炭窯の全景 (2000.2.21)



窯だし (2002.11.25)



窯だし (2002.11.25)



窯だしの後皆で楽しい焼きいも大会 (2002.11.25)